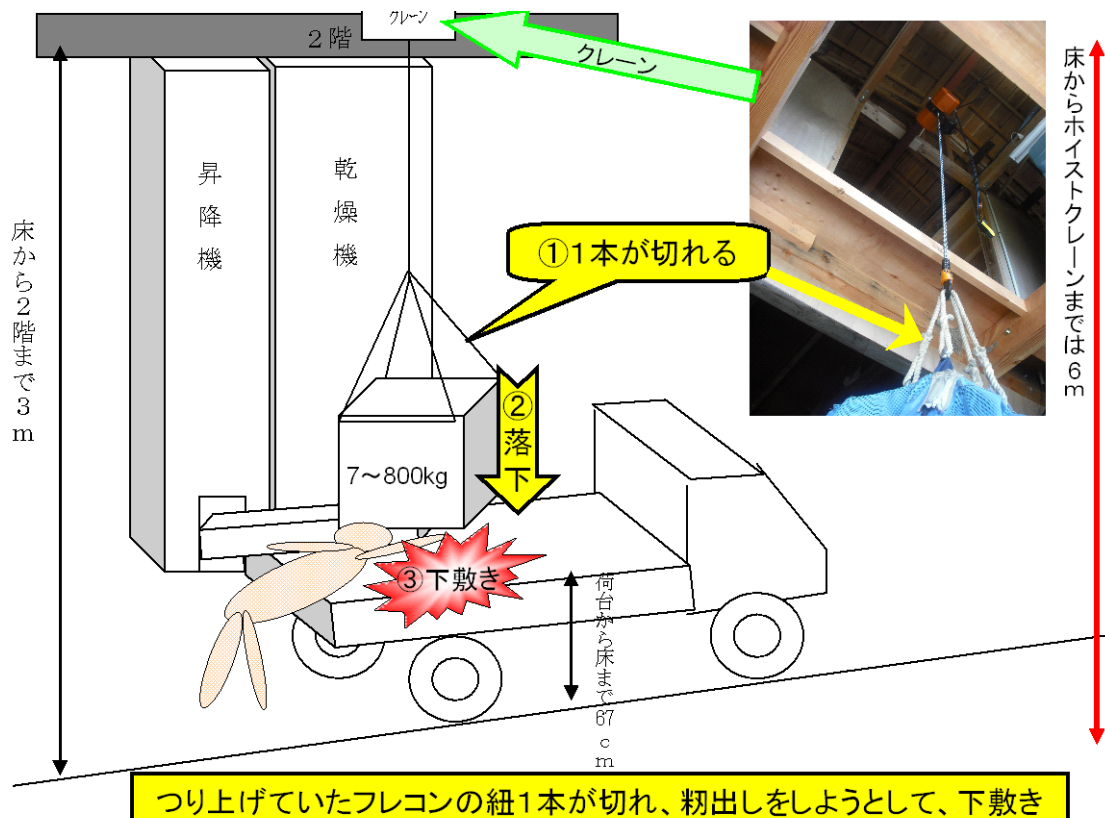


その後、乾燥機に粉を入れるためフレコンを吊り上げ、本人がフレコンの下に入り紐をほどこうとした時、継ぎ目が切れてフレコンが落下した。ホイストクレーンの操作を2階で行っていた父は、本人の姿が見えなくなったので、フレコンの下敷きになってしまったと思い慌てて下に下りてきたが、本人はフレコンの下からすでに這い出してきており安心した。（本人はどうなったのか覚えていない）



首が痛いと言ったので、父は病院に連れて行かねばならないと思い息子（本人の夫）に電話しようと思ったが、自分で電話出来ると言い携帯電話を出し稲刈をしている夫に電話をした。夫が来るまで作業所の前で腰を掛けて待っていた。夫は15分位で作業所に到着した。ケガの状態を確認後、土曜日であったので、県立病院の緊急外来へ電話し、事故者本人が車で病院へ行き治療を受けた。頸部打撲、1回の通院で済んだ。



フレコンの粉出しのため、開口紐を引こうと、フレコンの下に入った



突然、フレコンの4本のうち1本切れて、フレコンの下敷き

## \* 事故原因

自宅の作業所で乾燥するときはグリーンコンテナで籾を運んで来るため、ホイストクレーンを使ってフレコンを持ち上げるのは初めてであった。ホイストクレーンは2年前に設置し、2階に物を持ち上げることは時々あり扱いには慣れていた。なお、メーカーではフレコンのロープは3年くらいで交換したほうが良いと言っていた。

その後、これからは籾を運ぶ時はフレコンを使わないことにした。また、機械・作業所での作業開始前に点検をするようになり、農作業安全研修会にも出るようになった。

「ひょっとして危ないかもしれない」と思い確認はしていたことであったが、確実な確認が必要であった。また、農業関係機材は、見た目では「大丈夫そう」でも耐用年数や、使い方・使用頻度により、見た目以上に脆弱になっている可能性がある。まず、購入時に各資材に、「購入年月日」を見える形で書き込む、貼り付ける等が必要と感じられる。

### ⑥一輪車から、20kgの肥料袋を下ろそうとして転倒、胸椎圧迫骨折

(平成20年 9月 10時頃、畑、女性・62歳)

家の横の以前は水田であった畑に、20kgの肥料袋を一輪車に乗せて畑に運び、一輪車から降ろそうと、一輪車の横に立ち、腕を伸ばした状態で、持ち上げた時、おそらく胸椎の圧迫骨折を起こし、肥料をもったまま、横に倒れた。

2~30歩の距離の家に帰り、親戚に電話をした。親戚は、車で数分のところで、すぐに来てくれて、病院に連れていってもらった。MRIの撮影して、即入院となった。1ヶ月入院。コルセットをしての治療で、ほかに治療は特になかった。第12胸椎圧迫骨折。

その後も雪の上で滑って背骨の骨折、また木の根っこを捨てようとして、肋骨がバキボキ折れたこともある。

過去には、牛乳は好きでなく飲まなかった。最近になって健康のために飲むようになった。小魚や海藻類は、毎日欠かしたことがない。怪我をした時、病院で骨密度を測ってもらったら、大変少ないと言われた。



20kgの肥料を一輪車の横から降ろそうとして、転倒、胸椎圧迫骨折

## \* 事故原因

産業衛生分野では、重量物は「18歳以上の男子は、その体重の40%を、さらに女性はその60%に押さえる」ことをガイドラインとしている。とするなら、この女性の場合は体重 $35\text{kg} \times 0.4 \times 0.6 = 8\text{kg}$ ということで、8kg以下でなくてはならない。最近ホームセンター等で小分けした風袋のものも出来ているが、総ての種類があるわけではない。高齢社会を意識すると、さらにこれに年齢に応じた年齢係数をかける必要があり、さらに軽いも

のでなければならない。

現在、高齢社会となり、今までの発想を転換して農業資材のあり方を考える必要があると言える。

**⑦収穫した加工トマトのコンテナを集荷所のパレットに積み上げようと、振り上げて左肩筋断裂**  
(平成23年 8月 朝5時頃、野菜集荷所、男性・72歳)

朝5時から畑で加工トマトの収穫をし、専用のコンテナに20.4kgずつ詰め、集荷所に運んだ。集荷所では業者がフォークリフトで運びやすいように、パレットの上に、輸送効率上、縦3列、横3列、高さ5段に積み上げることになっている。

専用のコンテナは、縦46.5cm、横35.5cm、高さ27cm、重量2.0kgで、この中に加工トマトが20kg、余目として0.4kgの追加が義務づけられている。しかも、パレットの厚さもあり、その上にコンテナを5段に積み上げることは容易なことではなく、コンテナの重量を含め合計22.4kgを胸の上まで上げるため、反動をつけて振り上げるようにして積んでいた。このコンテナを詰む作業が辛いので、それを理由に止めていく人もかなりいたという。

この作業は隔日にあり、痛みを伴ったが、「筋をひっちがえた」かと思ひ様子見をしていた。しかし、良くなってこないで、近くの針灸医院に通院した。それでも改善しないので、20分くらいの場所にある病院を受診した。レントゲン写真を撮ったが骨には異常はなかった。1週間に1回通院し、湿布薬と痛み止めが処方された。病院に月1回スポーツドクターが来るというので受診しMRIを撮ったところ、右肩腱板断裂と診断され、このままでは治らないと言われた。手術は5ヵ月後。その後リハビリを約3ヵ月。左肩は良くなってきたが、その間右肩を酷使したため、右肩が痛くなり、うずくようになった。

**\* 事故原因**

本人の身長は156cmであり、パレットの厚さを含めると4段の高さは130cm近くになる。しかもコンテナの持ち手は上にあり、5段目を積むには、下から斜めに振り上げるように反動を付けないと上がらない。本人は左から右上に振り上げ詰め上げていたため、左肩に負担がかかり、負傷した。このような場合、積むための安定した台が必要である。それでも作業に負担がかかるときは、平積みにするなど積み方の工夫も必要である。

**⑧田植機に肥料を積もうとして、右足が石につまずき転んだ**

(平成24年 5月 10時頃、畦、男性・58歳)

6条植田植機を畦際に寄せ、畦に置いてあった20kgの肥料を積もうとした。そのままでは高さもあり難しいので、田植機の右側から一旦運転台に乗って、肥料を載せようとした。機械は水田の中にあり、畦から肥料を載せるので、それほどの高さ的な負担はない。足をかける田植機の平面まで77cm、畦の高さや水田面に機械が少しもぐった形になるので、実際には30~40cmであったと考えられる。

足をかける際、畦の石に右足がつまずいて捻挫。持っていた肥料で下が見えなかった。石が15cm地面から出ており、20cmぐらいの草で覆われていた。作業を中断できず、脚を引きずりながら午前中は作業を続けた。

転んだとき、びりびりという音がした。肉離れを起こしたようだった。午後、自分で運転してかかりつけの整骨院に行った。15分で到着。すぐに固定。忙しかったが、何日かおきに通った。腫れが引けた段階で、電気マッサージが施され、テーピングをした。

5月中旬の田植え開始後3日目の事故であった。田植えを他人に頼むことも出来ず、痛かったが我慢して、そのまま6月初旬までやった。



#### \* 事故原因

畦にある石はその都度抜いていたので、まさか15cmも出ている石があるとは思いませんでした。事故後、その石を後で取り除いた。本人の身長は173cm、体重90kgと大柄であり、20kgの肥料袋は特に重いわけでも無い。たまたま石があったためではあるが、畦から田植機に乗り移るときは、やはり無理な姿勢となり、靴も田植え中はどうしても濡れやすく滑りやすい。肥料そのものを小分けし、運搬しやすくするのも一法。